

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102525		
法人名	株式会社PLUNERSE		
事業所名	グループホームCruto		
所在地	熊本県熊本市南区城南町東阿高一ノ尾1279-1		
自己評価作成日	令和4年 2月 24日	評価結果市町村報告日	令和4年 4月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訪問看護が本部にあるため他事業所に比べると看護との連携、医療面は強く、医療依存が高い方、介護度が高いかたでも安心して暮らせるようにサポート体制が整っていること。また地域の病院との連携もとれており看取りの実績もある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 3月 10日

開設から3年が経ち、訪問を重ねるごとに事業所内の落ち着いた雰囲気を感じています。介護度の高い方も安心して過ごせるグループホームとして看護・医療の手厚いサポートの中、今回の訪問時には入居者の皆さんがカラオケを楽しまれたり、思い思いに居家で休んだり趣味を楽しまれる様子がありました。開設間もなくのコロナ禍により地域や外部との交流が難しい環境の中、ドライブや足湯等、社会情勢を考慮しながら屋外での楽しみ事も工夫されています。毎週のカンファレンス会議には法人役員も参加して職員への声掛けも行われており、職員面談でも働きやすい職場である様子が聞かれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者の</li> <li>利用者の2/3くらい</li> <li>利用者の1/3くらい</li> <li>ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての家族と</li> <li>家族の2/3くらい</li> <li>家族の1/3くらい</li> <li>ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>毎日ある</li> <li>数日に1回程度ある</li> <li>たまにある</li> <li>ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ毎日のように</li> <li>数日に1回程度</li> <li>たまに</li> <li>ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>大いに増えている</li> <li>少しずつ増えている</li> <li>あまり増えていない</li> <li>全くない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての職員が</li> <li>職員の2/3くらいが</li> <li>職員の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての家族等が</li> <li>家族等の2/3くらいが</li> <li>家族等の1/3くらいが</li> <li>ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境を提供できるように笑顔で接し、入居者一人一人の対応を小さなことでもスタッフ間で共有を図り過ごしやすいよう工夫している。	「笑顔が絶えないようにしましょう」と、カンファレンスや会議等で議題が出た際は管理者より職員へ伝え、理念の共有に努め、実践につなげたケアを行っている。	開設3年が経ち、職員の入れ替わりもみられるようです。事業所が次のステップへ向かうためにも理念を振り返る機会を持ち、介護計画・日頃のケアは理念に通じるものであることを共有されることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため交流できていない	事業所の周辺では農作業を行う地域住民の姿も見られ、日常的な散歩の際等、挨拶を交わしている。事業所と地域との交流はコロナ禍により難しい状況であったが、回覧板により地域情報を得ている。感染症収束の後には「地域へ出向く」ことも課題とし検討している。	開設間もなくからの感染症拡大により、地域との交流が叶わない状況だった様子が聞かれました。収束の際には事業所のことを地域に知って頂く取組みから始められてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため地域貢献できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も資料での報告となっている。	感染症拡大の懸念から会議の開催は難しい状況であったため、書面による報告を行っている。	
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ささえりあ城南を交えて南区のグループホーム共同会議開催、情報交換実施(1回のみ)	市・高齢者支援センターささえりあ城南とは日頃の報告・連絡・相談、運営推進会議資料による活動報告等で協力関係の構築に取り組んでいる。今年度は地域他事業所との協同会議に出席し報告会を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は常時かけているが希望時は付き添い対応実施している。前回車椅子ベルト使用しておられた入居者のかたも解除することができた。	3ヶ月に1回、職員で入居者の状態を話合う際、センサー等の必要性や継続について検討を行っている。身体拘束については資料を用い職員間で共有を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束も兼ねて定期的カンファレンスで話し合いができる環境を心かけている		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要時には連絡したり受けたりと対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍において家族との情報交換ができていない。	コロナ禍であっても、感染拡大状況を把握しながら窓越しや玄関等、出来るだけ工夫し面会を受け入れてきた。従来のような面会が難しい状況であるからこそ管理者や看護師を中心に家族への連絡を手厚く行うよう事業所全体で取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時現場に入り、スタッフと情報交換している。話やすい環境をととのえている	職員は日常業務の中で管理者へ意見を表すことができる。毎週行うカンファレンスを兼ねた会議には法人役員の参加もあり、職員一人ひとりに声掛けを行うことで意見や提案を聞く機会も設けられている。法人・管理者より職員の個人面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度も賞与2回支給。会議なども勤務内に設け残業しない環境に努めているがまだ課題はある。今後も改善に努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの力量、必要な研修はウェブ会議などで参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区のグループホーム管理者合同会議を開催。情報交換が一度だけできた。同業者の来所も二回あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にヒアリングを行い、要望を聞いている。入居されてからも不安や要望取り除く努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族へヒアリングを行い、要望を聞いている。入居後は特に密に連絡とりたい努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、又は入居時にキーパーソンの方とは密に話し合いを実施しサービスの優先順位を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の目線、立場に立って行動を行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の目線、立場に立って本人様の意見を尊重し、ご家族との良好な関係を維持するよう行動している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で直接の面会はず、又」外出も容易にはできないが、手紙やラインを通じて関係が途切れないよう努めてる。	昨年度に続き今年度も外出や訪問による馴染みの人や場との関係継続の支援は難しい状況であった。家族との関係を大切に、事業所からの連絡や出来るだけの面会受入れにより支援を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや誕生日会などで交流をはかり支え合うような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご夫婦で入居されておられたが奥様の体調不良で退居が余儀なくされた。ご主人の近況報告じなど奥様の状況も確認することに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	たびたび本人や家族に要望をお聞きして把握に努めている。	意向を表すことが難しい入居者もおられるが、日頃の様子、動作、職員の声掛け等により把握に努めている。入居者の希望や意向、家族への確認より把握した情報は共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはサマリーやご家族からヒアリングを実施し、入居後はご家族の面会や電話連絡時にお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員が日々の生活の中で観察を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	観察して把握した情報をミーティングや申し送りで共有し、都度カンファレンスを開催しよりよい介護計画を作成している	毎週カンファレンス会議を行い、入居者の情報共有やケアの見直し検討を行っている。カンファレンスの内容や入居者それぞれの担当職員、管理者、入居者、家族や関係機関等の意見を反映した介護計画であり、入居者の状態・支援の内容が具体的に分かりやすく作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察を記録し、ミーティングや申し送りでスタッフ全員と情報を共有し計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態などを把握し、スタッフ間で共有しニーズに答えられるようにこころがけている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出などは困難な状況だが出来ることを実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時はもちろん、その都度必要に応じて報告を行い、適切な医療を受けられるように援助を行っている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現在3医院からの往診を受け入れている。専門医等の通院は家族への協力も依頼し、難しい場合は職員による通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師常駐しているので報告連絡はすぐに出来る環境を整えている。スタッフ間のコミュニケーションは大切にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し情報をお伝えし、また入院中は定期的に連絡を行い、状況を把握するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の関係者とは取り組めていないが主治医へ状況報告はもちろん家族とも連絡を密にとりあい本人をはじめ家族との意向を取り入れ大切な時間を提供できるように取り組んでいる。	医療依存度が高い入居者にも24時間体制で医師・看護師の連携が可能であり、日中は看護師が勤務していることにより家族の安心も大きい。実際にその時を迎えた際には医師・家族他関係機関との連絡を密にし、コロナ禍であっても家族の面会を受け入れ支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル作成、救急対応を個々にてファイリング、シミュレーション実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナにより外部との連携はとれていない	年2回の防火避難訓練を実施している。夜間想定での訓練では職員の緊急連絡も確認し、入居者は転倒リスクを考え安全に配慮し出来るだけの参加で行った。	自然災害でハザードマップに指定された地域であることを確認されています。火災だけでなく、自然災害等にも事業所の行動指針等を検討・策定し、職員間での共有が必要と思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折カンファレンスを開催し自分の声掛け方について振り返りを行っているが努力が必要	入居者への言葉掛けや言葉遣い等、日常業務の中で気になる事例が見られた際は管理者より職員へ声掛けを行っている。個人の尊厳を尊重したケアは運営方針でもある。トイレの施設時等安全リスクが見られる際には個別に検討し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けし働きかけている。ケアマネよりモニタリング時などから情報を吸い上げ共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重しながらもその日の体調などを考慮し無理のない生活を送って頂けるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に複数の衣服から本人が希望するものを決めていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみを最大限に活かすため好きなもの食べたいものを入居者一人一人に確認し提供している。まだ途中の段階。数名実施済	入居者一人ひとりの好みも取入れ事業所内で手作りの食事を提供している。入居者の好みは言葉で出にくいことも多いため、写真等を利用し選択場面を作り取組んでいる。茶碗ふきや皿洗い等、出来るだけの手伝い・関わり作りも継続している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は個々に合わせた状態を提供している。一回ではなかなか飲料困難ならば数回に分けて提供実施している。また、排尿の色、混濁具合などの情報交換をして水分量を調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回の訪問歯科からのアドバイスをもらいながらケアにあたっているがまだまだ努力が必要。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄誘導を行い、排泄パターンを把握する努力はしている。日中はオムツ外してトイレ誘導を実施している	日中はできるだけトイレでの排泄を支援している。トイレはユニット毎に3ヶ所あるが、臭気に配慮し、パット等の処理場所・方法を統一している。パットの使用量の変化等には家族への状況説明も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に乳製品を出すなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定は立案しているが本人の体調やご機嫌などに配慮して実施している。また、入浴剤購入したり、四季にあわせた冬至湯だったり工夫している。	週2回の入浴を基本とし、気温や入居者の様子により午前・午後等臨機応変に対応している。拒否が見られる際には馴染みのある入浴剤を利用したり、時間帯をずらしたり試みている。機械浴・ハーバード浴が設置されており、全ての入居者が浴槽での入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が見られたり、座位保持困難な時など状態、状況に合わせてベッド臥床など柔軟な対応を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	小さな変化でも情報共有が出来るように毎朝の朝礼時など発表の時間を声掛けして誰でも発表、報告が出来る環境に努めている。変化時は早急に主治医へ連絡できる体制を構築している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	土いじりや絵画、月ごとのイベントなどを催し、楽しみや気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	中庭は常に開放している為、希望時は誘導、付き添いを実施している。紅葉ドライブを実施し気分転換を図れた。地域との関わりは避けている。	事業所建物は中庭を囲んでおり、中庭は日中錠なく自由に出入りできる。庭いじりが好きな入居者の姿も見られる。周辺の散歩もあり、時には近隣へのドライブで足湯を楽しんだり、コロナ禍の中でも工夫し外気を感じる取組みを行っている。	コロナ禍の中、工夫し、外気を感じる取組みをされている様子がうかがえました。収束後は地域住民との交流に繋がる取組みにも期待します。



グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理している。コロナの影響もあり外出を自粛している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	たびたび電話支援や手紙のやり取りの支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの気温調整はもちろんのこと四季折々のお花からイベントを実施している。また日勤開始まえに環境整備を実施している。	事業所内の室温調整・換気、臭気に配慮している。庭に咲いた花を入居者がつみ飾る場面も見られる。廊下には椅子が置かれ、室内からも外の景色を楽しむことができる。食事時には介助が必要な場面が増えたため、全体的な見守りができる配置を検討したりと工夫している。法人による環境整備も行われ、心地よい空間作りが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの配置は気の合った利用者が過ごせるように工夫している。柔軟な対応を実施できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と話し合いながら生活しやすい導線づくりに努めている。	洗面台・ベッド・布団・エアコンが完備された居室には自宅から使い慣れた生活用品が持ち込まれ、木彫りや読書・絵画等、趣味を継続されている様子が見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に生活できるように援助、支援に努めている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームCruto  
作成日 令和 4年 4月 8日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域との付き合いがコロナ禍の為交流出来ていない。	今年こそは地域の清掃活動等に参加できるようにアンテナをはること地域の情報を収集する。	・回覧板や、近所の方、近辺に世帯をもつスタッフより情報収集する	コロナが落ち着き開催されれば
2	49	日常的な外出支援について、コロナの影響により感染リスク高いため外出出来ていない。	四季折々の季節を感じて頂くため外出計画を立てていく。	・定期的に人流を避けるような計画を立案していく。	1年間
3	50	お金の所持や使うことの支援について現在施設管理している。	判断力の維持又は向上を図る。	・入居者をリストアップして家族へ内容説明。・外出先での買い物、又は訪問販売を活用する。	1ヶ月～3ヶ月
4	20	馴染みの人や場との関係継続の支援について手紙やラインでの報告をしている	引き続き手紙やラインを継続し、関係性を継続できるように工夫して提供していく。	・コロナが落ち着けば面会も緩和していく等、状況に応じ各家族へ連絡、又は運営推進会議などで発信・対応をしていく。	コロナの状況を見ながら
5	14	管医者や職員間での相互訪問などの活動ができていない。	同業者と交流を交え情報交換しながら事業所間のサービス向上を目指す。	感染リスク定義に則り可能な限りの環境での開催ができないか事業所間で話し合い、場を設ける。	1ヶ月～3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。